

自動運転バス 実証実験中

始動

想像していた未来がすぐそこまで
スマートシティ事業



令和元年度、毛呂山町は国土交通省が実施するスマートシティ先行モデルプロジェクトに採択され、町の地域課題を解決するために民間企業と力を合わせ、様々な取組を行っています。

3月には目白台地区で自動運転バスの実証実験が行われました。

皆さんが想像した未来がすぐそこまで来ています。

問合せ 役場まちづくり整備課 ☎295-2112①152



3月16日、目白台地区で自動運転バスの試乗会が行われ、町議会議員の皆さんやマスコミ関係者、スマートシティ事業の関係者など約50人が参加し、安全性や乗り心地の確認をしました。

自動運転バスは、目白台1丁目にあるコミュニティセンターを出発し、4丁目の給食センターで折り返し再びコミュニティセンターに戻る計2.6キロのコースを時速25キロで走行しました。

今回の自動運転バスの実証実験は毛呂山町で行っているスマートシティ事業の一環であり、町内企業である株式会社ビコーと東京都にある先進モビリティ株式会社を中心となっていたものです。

試乗者からは、「ハンドルが自動で曲がっていく様子が不思議だったが、スムーズで安心して乗れた」という声が聞かれました。

毛呂山町の取り組み スマートシティプロジェクト

本町はもちろん全国的に少子高齢化が進み、自治体の財政収支の悪化について対応が求められています。

こうした人口が減り税収が減るといふ局面において、地域課題の根本原因を把握し、解決するための方法の一つとして、通信技術や人工知能といった先端技術の活用によるまちづくりが「スマートシティ」です。

本町のスマートシティ事業は、

- ・自動運転技術の社会実装
 - ・デジタルガバメントの実現
 - ・先端産業の育成と実装
 - ・エネルギー政策の充実を起
- 点としたまちづくり

の4つの取組を計画しています。これらの取組を推進し、知識や情報の共有を通して、町民の皆さん一人一人が快適で活躍できるまち、地域課題を克服することができるまちを目指しています。

事業の推進には国や県との連携はもちろんのこと、株式会社ビコーのような、町を愛

本年11月からの自動運転バスの運用開始を目指す

運用開始を目指す

今回、自動運転バスの実証実験を行った目白台地区では、以前は路線バスが走っていましたが、採算が取れないということでバス会社が撤退し廃線となってしまいました。現在は町のコミュニティバスが走っていますが、公共交通機関が充実しているとは言えない状況です。

今後、全国的に人口がますます減少していくなかで、公共交通機関が充実していないというところは町にとって大きなウィークポイントです。自動運転バスの実証実験について、弊社にとって挑戦で

もありましたが、地元企業として、町のために貢献できるのではと考え、プロジェクトに参加しました。

もともと弊社では、人工知能を活用した遠隔監視の掃除用ロボットの運用を行っていたことから、その分野で培った技術が自動運転バスにも活用できると考えています。

現時点での詳細は未定ですが、目白台から武州長瀬駅間において今年の11月ごろからの自動運転バスの社会実装（※1）を目指して開発・調整を行っているところです。



株式会社 ビコー
瀧澤 秀和 取締役社長



現在、日本の法律では自動運転に関して認められているのは「レベル3」まで。特定の場所に限ってシステムが交通状況を認知して、運転に関わる全ての操作を行うが、緊急時やシステムが作動困難になった場合は人が対応を行うため、運転席にはドライバーが座る。

目標は『田舎のスマートシティ』の実現

弊社は毛呂山町が進めているスマートシティプロジェクトの協議会メンバーですが、弊社が目指しているのは「田舎のスマートシティ」の実現です。

東京などの都会で行われているスマートシティ実現に向けた取組を毛呂山町に当てはめて実施したとしてもうまくいかないと考えています。都会とは財政規模や社会インフラなどの状況が全く異なるので、抱えている地域課題も違います。

弊社は埼玉県からもAIなどを活用して先進的な取組を行う事業者として地域経済牽引事業の採択を受けています。引き続き毛呂山町とともにスマートシティプロジェクトを推進していきます。

この町で暮らす人や地域性、産業、地域資源などから地域課題を見つけ、その解決のためにICTをどのように活用するのかを考え、何より町の身の丈にあった事業を行うべきです。

し、自主自立するまちづくり事業を行う民間事業者との対話や協働が不可欠です。

本町は、地域課題から目を背けるのではなく、民間事業者と協力しながら社会の変化を受け止め、しっかりと考え行動し、町民の皆さん一人一人の思いを形にできる取組を推進していきます。

現在、自動運転バスだけでなく、「バスロケーションシステム（※2）」などの実証実験を行っています。今後も、本町におけるスマートシティの取組について広報などを通じて町民の皆さんに随時お知らせしていきます。

←（※2）実証実験で実施している「LPWA通信を活用したバスロケーションシステム」。役場ロビーに設置され、もろバスの走行位置と停留所到着までのおおよその待ち時間をスマートフォンなどで確認することができます。

